

# 140周年を迎えて

## 银杏と校章を 振り返る

創立  
140年  
③



速報新聞

# キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

新聞部  
彦根市金亀町4番7号

▲「東高百二十年史」の内容を中心に話された。

本校は1948年に総合制彦根高等学校が発足され、東西校舎に全日制普通課程・商業課程・定時制普通課程・南校舎に全日制工業過程・定時制工業課程の三校舎に分かれていた。

翌年全校投票の結果、当時の生徒である東校舎2年9組藤田正治君が発案した現在の校章が用いられるようになった。藤田くんは選ばれた感想を「僕の応募したのが彦根高校の校章に決まったと聞いた

### 校章の成り立ち

本校創立140年について青木靖夫校長先生が話されるこの企画は今回で3回目を迎える。

今回は中庭の银杏の木と本校の現在の進学校としての位置付けに至るまでの歴史について振り返る。

青木校長先生は現在本校のシンボルとなっている银杏の木について話された。現在の中庭にある银杏の木は二代目であり、一代目は旧藩時代家老長野氏の屋敷の一隅にはえていたらしく、1915年に校舎が改築され银杏の木はその西側に位置するようになった。この頃から本校では银杏の木がシンボルとなっていた。

### 银杏の今昔

ときは、感激で胸がいっぱいになりました。六角形は光栄ある彦根の金亀の亀形を表して、それが集まっているのは三校舎がしっかり結びついているのを表しています。私たちはいつまでもこの校章の如く一致団結して彦根高校の名を又この校章を光栄ある意味で知られたいと思います」と話している。(『彦根東高百二十年史』より)

また1952年4月1日、滋賀県下の高校再々編成によって、総合制彦根高等学校は彦根東高等学校、彦根西高等学校と県立短期大学付属工業高等学校の三校に分離開校された。この頃から本校は湖東地域の進学校として、明確に位置づけられることになった。

た。1959年から校舎改築事業により一代目の木の樹皮が剥落した。その後当時の教諭である末松修先生らは肥料や土の入れ替えにより再生をはかられたが効果はなく1971年に一代目の银杏の木は切り倒された。そして1975年に彦中第十九回卒業生により二代目の银杏の木が植樹された。

青木校長先生は在校時の银杏の木の思い出について「在学時は一代目の银杏の木を伐採した後で二代目の银杏の木がまだ植樹されておらず、残念だ」と振り返られた。



▲银杏再生のために尽力される当時の先生方(「いちよう物語」より)